

高知家の健康だより



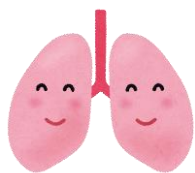
令和5年9月29日発行

9月24日～30日は結核予防週間です。

- 結核は、今でも年間10,000人以上の新しい患者が発生し、1,600人以上が命を落としている日本の主要な感染症です。
- 結核の症状は、長引く咳、たん、微熱、体のだるさなどが挙げられ、結核が進行すると咳やくしゃみによって周りの人への感染リスクが高くなることから、早期発見・早期治療が重要です。

結核はどのようにうつるのか

結核が進行すると、咳やくしゃみなどによって、空気中に結核菌が飛び散るようになります。
その結核菌を吸い込むことにより周りの人に感染が広がります。



どのような人が結核と診断されているのか

新規結核患者は、高齢者に多く、およそ4分の3が60歳以上。
また、特に若年の外国生まれの患者の割合が増加しており、20-29歳の新規患者のおよそ4分の3を占めています。

どのようなことに普段から気をつけるとよいか

定期的に健康診断を受けることが重要です。
結核を発症しても、早期に発見できれば重症化を防げるだけでなく、家族や友人等への感染拡大を防ぐことができます。



(参考文献：厚生労働省ホームページ)

高知県の結核対策（高知県健康政策部健康対策課）

➡ <https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130401/kekkaku.html>

ジェネリック医薬品使用割合（出典：「最近の調剤医療費の動向」R5.3月時点）
数量ベース（新指標） 高知県 80.7%（全国 45位） 全国 83.7%

